

探究指導者のための Step Up Matrix は、探究活動の指導にあたる教員の目標設定にするために、洛北 Step Up Matrix に基づいて作成しました。見通しをもってスキルアップをねらい、自己評価を通じて現在の自分の力を把握することに役立てます。また、校内の教員の自己評価データをもとに、いま学校としてどの観点のどの Step の指導に課題を抱えているかを把握することにも使えます。

探究指導者のための Step Up Matrix

Step	発想	課題・仮説設定	調査・実験計画	研究遂行	表現・発表	探究姿勢	評価	探究デザイン
6	自分の発想の価値を生徒自身が検討する機会や教材を提供することができる。	仮説を検証し、新たな課題を見つけ仮説を立てる機会を設けることができる。	課題や期間にあわせた、適切な実験・調査計画の立案方法を指導することができる。	課題を解決するために、仮説⇒検証を繰り返す十分な時間や機会を設けることができる。	グローバルに発信・発表する場の提供、または、情報を提供することができる。	研究倫理について具体的に指導できる。	生徒の成長を長期的に捉えられる評価内容・方法を決定し、他の教員と共有できる。	目標が達成できたかどうかを評価し、探究活動を改善して実施することができる。
5	他者と討論し、得られた情報からアイデアを練り上げる方法を指導できる。	仮説の根拠を説明させることができる。	先行研究（論文）の読み方を指導し評価させることができる。	得られたデータを統計的に分析し、分析結果を言語化する方法を指導できる。	論理的に矛盾のない文章の書き方、論文の書き方を指導できる。	自分の活動が学問への貢献や社会につながることを、生徒に意識させることができる。	成果物、ふりかえり、活動の様子など複数の要素を総括して評価することができる。	探究活動の内容と指導方法の評価計画を作成し、評価できる。
4	学んだことや知ったことを組み合わせ自分の考えを表現させる機会を複数回設定できる。	仮説を設定する方法を指導することができる。	課題に対する先行研究の調査方法を指導できる。	得られた結果を解釈する方法を指導できる。	スライド・ポスター等による発表の機会を設け、その方法や意義を指導できる。	新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする環境や機会を提供できる。	生徒と共有したルーブリック等の評価基準で成果物を評価できる。	場面に応じて生徒の活動をファシリテーションできる。
3	身の回りの現象を調べるきっかけとなる発問や機会を設定することができる。	問いの作り方を指導することができる。	仮説を検証するためのデータの取得・分析方法を指導できる。	実験・調査の結果を複数の視点から捉える方法を提示できる。	スライド、ポスター等の発表資料の作成指導ができる。	自分や相手を適切に評価する方法や発表の場でのマナーを指導できる。	ルーブリック等の成果物の評価基準を設定することができる。	探究活動に必要な教材やアクティビティを作成することができる。
2	身の回りの様々な現象を観察する際の視点・方法を指導できる。	書籍やインターネットを用いて疑問について調べる方法を指導できる。	器具、操作の原理を説明し、基本的な実験・調査の技術を指導できる。	実験ノート等を用いて研究記録を正確に取る方法を指導できる。	レポートの書き方を指導できる。	時間をかけて事象の本質や背景を粘り強く理解する機会を設ける。	成果物やテスト等を用いて評価することができる。	生徒の状況に応じた活動を計画することができる。
1	生徒に観察の対象や機会を複数提供できる。	疑問のパターンや問いの具体例を示すことができる。	実験・調査の手順を示し、結果の読み取り方法を指導できる。	実験・調査の意義を生徒に理解させて手順通りに取り組ませることができる。	自分の意見を持ち、失敗を恐れずに表現できる環境と機会を提供できる。	探究による新しい「きづき」と素直に向き合える環境を提供できる。	評価の材料や手法を検討することができる。	活動の目標を設定することができる。